

気が付くと10日以上が経ってしまいました。今年の文化祭が全体としてどのようなものであったか、気にかけくださっている地域の皆様もいると仄聞しております。ここまで更新が遅れたこと、お詫び申し上げます。ようやく写真等が出そろいましたので、本年度の楠翔祭（文化祭の部）の報告をいたします。

まず、準備段階での本年度の新しい取り組みの一つを紹介します。例年実施している体育館演劇の質を向上させるために、本年度は「東京演劇集団風」の俳優であり演出家でもある西垣耕造さんを数回お招きし、生徒に講習と助言をお願いいたしました。講習の様子は7月に報告しましたが、以下は前日の9月3日（木）の体育館の様子です。皆熱心にアドバイスを耳を傾けています。



次に、前日の9月4日（金）の様子です。今年は何の参加団体も展示その他の装飾に時間をかけたようです。特に、3年生の演劇の道具の多さには驚かされます。教室や控えの場所が道具であふれかえっています。「こんなに作って間に合うのかな」という大人の心配をよそに、1日でみるみる装飾や道具が完成していくことには驚きました。





今年は文化祭期間中の雨が予想されるために、各団体の看板の設置は校内となりました。受付を済ませ、入場すると社会科室から生徒昇降口ラウンジにかけてずらりと看板が並びます。夕方までには全ての看板が並び、また美術部作成の校門装飾も雨の中設置し、明日の来校者を迎える準備ができました。





そして、9月5日（土）・6日（日）の2日間、雨の中とはいえ、無事開催にこぎつけることができました。

初日、開場の様子です。例年通り、吹奏楽部によるオープニング演奏を合図に、来校者を迎えました。いよいよ一般公開開始となります。



5日（土）、6日（日）両日とも朝から行列を作ってくださいました。受付前は来校者であふれています。多数の来校者を想定し、今年もキッチンカーに来てもらいました。雨にもかかわらず、昼食をとるために設置したテント村の中は2日間盛況でした。



では、いよいよ企画の紹介に入ります。ここからは、校内の順路に沿ってどのような企画があったか紹介いたします。あらかじめお詫びも含めお断りをさせていただきますが、本年度は担当が全ての企画を回ることが残念な

ができませんでした。写真撮影を各団体の顧問教諭や生徒にお願いし、収集することでなんとか全体の様子を把握することができた次第です。紹介の文言が舌足らずであったり、不十分と感じられるところがあるかもしれませんがご容赦願います。ではまず、受付を入り看板が並ぶ管理棟の様子から。

受付から入場するとまず右手に社会科室があります。例年通り、この部屋は合唱部と演劇部が講演会場としています。合唱部は「J-POP&アカペラメドレー」というプログラムで今年も綺麗で華やかな発表公演を行ってくれました。二日間に4回の公演を行いました、どの回も立ち見も出る盛況でした。



演劇部は来月行われる演劇連盟主催の秋季コンクールで発表する予定の創作演劇を上演しました。題名は「Ketzerrei」。ケツァライと読み、ドイツ語で「異端者、悪魔崇拜」を意味します。キャストは1年生3名、2年生2名の計5名の小演劇となりましたが、2年生が上手いのは当然として、1年生も熱演でした。コンクール頑張ってください。



社会科室を出ると、向かい隣の教室では生物部が元気に呼び込みをしています。中に入ると暗い中、静かで神秘的な雰囲気です。毎日部員が世話をしている珍しい生き物が展示されています。生き物というものは見ているだけで癒されます。





再び明るいところに出て、先に進みます。昇降口のラウンジには美術部と美術の授業で作成された作品が窓を飾るように展示されています。力作ぞろいです。



昇降口の大階段（通称シンデレラ階段）を上り2階に進みます。まず、階段奥正面の通常自習室として使われている部屋は書道の展示と、総務部のミニ学校相談ブースが設置されています。外の喧騒が嘘のように静かな雰囲気ですが、客足は途絶えません。



管理棟の渡り廊下ではP T Aの展示です。うちわ作りの体験で、お子様連れのお客様が楽しんでおられました。



職員室前を通り、階段を降りると、突き当りの和室では茶道部による恒例のお茶会が開かれています。導線上あまり良い位置にあるとはいえない会場なのですが、毎年多くのお客様にお茶を楽しんでいただいております。





以上で管理棟の企画紹介は終わりです。再び、2 階に上がり教室棟の展示会場に向かうと、もう大変な状況になっていました。人であふれかえっています。



2階の渡り廊下は長蛇の列です。家庭科部の菓子販売に並ぶ列で階段まで人が続いています。行列としても壮観な眺めです。



移動中、あちこちで生徒が元気に呼び込みをしています。お祭りの雰囲気が出ており、外の土砂降りも気になりません。今年は異装や扮装を楽しむ生徒が多いですね。恐竜だのお化けだのがあちこちで練り歩いています。





さて、やっと教室棟にたどり着きました。クラス展示やアトラクションが中心になります。一気に4階から紹介していきます。

教室棟4階は4団体でレクリエーション系の団体になります。まず1年3組の「Lucky Vegas ～Mr.Oyama club～」。

生徒が廊下にも行列を作り、中に入るとものすごい盛況でした。



お隣の講義室は1年1組の「今日、縁日始めました。」。企画に読点が点くのは珍しいと思い入りますと、中はこんな感じでした。





ラウンジを挟んで1年4組です。『『ニッシーワールド』 ～コインを集めて景品 Get!～』担任の名前を組み込むのが流行りなののでしょうか。担任は苦笑いをしていましたが、生徒たちは楽しそうです。



1年5組の「ギャラクシーでハイ、チーズ☆」。名前からしてレクリエーション系かと思いきや、プログラムの分類は展示となっています。床まで覆って準備が大変だったでしょう。



4階の最後の団体は1年6組、企画名は「ブルー6組」です。例年よくある、サッカー系のレクリエーションです。1番元気な歓声が上がっていました。





3階に下ります。この階は5団体です。2学年のクラスレクリエーションが4団体に、文化部の展示が1団体になります。まずは2年2組「楠翔祭ミステリー～ヒトミの中の謎～2」。装飾は少なめですが、不思議な空間です。



その隣の教室は2年1組「Jurassic Safari」の会場です。中は暗くて撮影できなかったのですがコースター系のアトラクションです。出入口が恐竜の口になっているところがアイディアでしょう。



ラウンジ手前の講義室が漫画研究部の展示です。展示は慣れたもので、部誌の配布だけでなく、寄せ書きのコーナー、窓ガラスを使ったウィンドウアートなど、カラフルな展示でした。





2年4組の「増岡先生の帰り道」です。ここでも担任が愛され（弄られ？）ています。中は残念ながらお見せできませんが、ご覧の通り40分待ちの大盛況でした。



その隣の2年5組のレクリエーションの名前は「夜の遊園地—今から皆さんは警備員です—」でした。広報の生徒が顔を白塗りにし、練り歩いていました。中に入るとブラックライトと紫の照明でしょうか、なんとなく雰囲気を感じていただければと思います。



以上3階でした。次は2階に下ります。この階の中心は食品販売と喫茶、それと映画上映です。まずは2年3組の「あの世の喫茶」です。外の装飾がすごいことになっています。



お隣が2年6組「プラネタリウムカフェ」。内装もいい感じです。喫茶の2団体は廊下の行列もすごい状態でした。





ラウンジを挟んで食販・喫茶団体の3クラス目、2年7組の「今昔堂 南本店」です。昭和レトロの縁日風喫茶というところでしょうか。





映画上映は例年1階の視聴覚室に固まっていたましたが、今年からは1団体1教室が割り当てられ、好きな時間に好きなだけ上映できるようになりました。1年2組の「劇団二季」と1年7組の「赤い床」の会場の様子です。装飾がないのがちょっと寂しい気もしますが、映画ですので作品が面白かったかが重要になります。教室用のプロジェクターを使い、常時夏休み中にとった作品を上映していました。



これで教室展示企画の紹介は終了ですが、1階に下りて体育館に向かおうとするともう1団体、静かな展示をしています。



このまま体育館に進みます。体育館では3年生全クラス7団体、チアリーディング部、ダンス部、踊り部、吹奏楽部と公演団体が目白押しの状態でした。目当ての団体の発表を待つ長蛇の列が2日間、終日絶えませんでした。

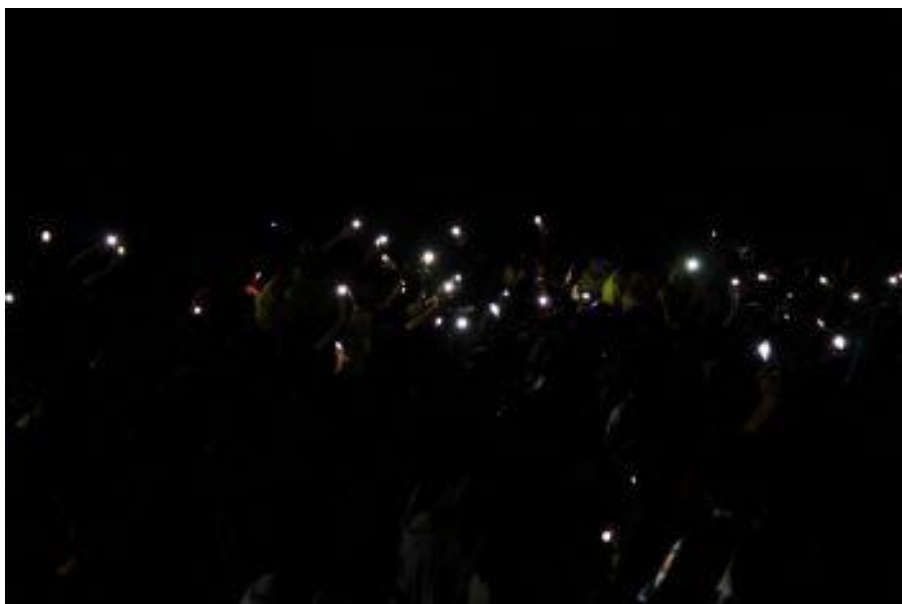


まず紹介するのはチアリーディング部です。この部活は、オープニングの吹奏楽部と同様、毎年体育館公演の嚆矢として、明るく元気な発表をしてくれます。





ダンス部、踊り部の公演也大いに盛り上がっていました。観客席ではスマホライトが踊ります。



そして吹奏楽部。一部ですが初日の最後に聞くことができました。緞帳が開くだけで会場の雰囲気が変わります。今年も華やかな演奏で、文化祭を毎回締めくくってくれました。



さて、企画紹介も最後のコーナーに差し掛かりました。3年生の体育館演劇の紹介です。冒頭にも述べましたが、今年はプロの演出家にご指導をお願いし、質的向上を目指しました。演目としては童話や既存の物語の二次創作が中心となりましたが、台本段階でなかなかの力作があがってきました。本年度は残念ながら担当が全ての演劇を見ることができませんでした。よって、担任団からいただいた写真と提出された台本をもとに、あらすじを紹介します。ご容赦願います。クラス順に述べてゆきます。一クラス1ページにまとめてみました。

3年1組 「7人の小人のわくわくドキドキ告白大作戦」

王女に白雪姫の暗殺を命じられた気弱な王子は、姫に一目惚れしたことで小人たちと共に恋愛作戦を重ねていきます。最後は毒林檎で倒れた白雪姫へ真剣な愛の告白をして彼女を目覚めさせ、見事両思いになるコミカルなハッピーエンドの物語です。舞台装置がシンプルで綺麗です。



3年2組 「村のイタズラもの」

「三匹の子ブタ」のパロディで、実は村の迷惑なイタズラ者だった子ブタたちを、オオカミが本木さんとの過酷な修行を経て倒しめる。最後は、子ブタたちの被害に悩んでいた村人たちがオオカミを英雄として迎え、どんでん返して真相が明かされるコメディです。舞台づくりに細かな芸が見えます。



3年3組 「新解釈・走れメロス」

演劇でメタコメディという分野があります。原作の表現形式や構造そのものをネタにするというやり方で、今回感心した台本の一つです。太宰治が編集者の無理な注文から、限定スイーツ「もっちゅりん」の買い占めに激怒した短気なメロスが主人公の破天荒な「走れメロス」を執筆するというお話。劇中では、警備に捕まったメロスが熊の群れや元ヤリラの「妖精」たちに助けられながら、出版社のツッコミをよそに親友との友情を熱く完結させます。



3年4組 「超かぐや姫」

竹から生まれたかぐや姫が、翁とおばあちゃんにやさしく育てられ、成長するまでは原典に同じです。成人したかぐや姫がたけのこ取りに山に行き、そこで倒れてしまいます。不治の病で余命もないと分かったところで、ファンタジーからリアリズムになります。誠実な男性に恋をされ、3度の訪問（逢瀬）経て・・・今時珍しいストレートプレーです。7クラス中の台本で唯一、「生き続けることの大切さや美しさを伝える」とテーマが記入されていました。テーマが伝わりましたでしょうか。



3年5組 「桃太郎～END GAME～」

先代から「二代目桃太郎」を継ぐことになった新桃太郎は、クセの強すぎるオーディション参加者たちからトリ、カメ、ロバを仲間として選抜します。謎の「ONICHA」で覚醒したチームや途中参戦の仲間たちと共に鬼ヶ島へ乗り込み、総力戦の末に鬼を討伐して真の仲間との絆を手に入れます。アベンジャーズ風の乱入者も含まれていたり、最後は担任教諭まで舞台に引っ張り上げ、歌を歌わせているところがミソでしょうか。



3年6組 「坊主の宅急便」

魔女の修行中で新天地ハマノシティにやってきたキキは、時計塔の街から追ってきたトンボや新しい仲間たちと出会い、宅配の仕事に奮闘します。カラスとのバトルや荷物の配達を乗り越える中、トンボが事故でキキとの思い出だけを忘れてしまいますが、キキの必死な想いが奇跡を起こし、最後は2人の素直な気持ちが通じ合って結ばれます。有名なアニメのパロディですが、皆楽しそうに演じていました。



3年7組 「盛れ！・ミ・アリス～姫ギャルアリスはオオカミくんをプロデュースする～」

厳しい上司に日々叱られる OL・有栖川は、大好きな『不思議の国のアリス』の世界を妄想していました。その中で、見た目のせいで周囲から誤解され恐れられている心優しき狼に出会った彼女は、彼をプロデュースして誤解を解こうと奔走します。現実と不思議の国がリンクする騒動の末に狼と心が通じ合い、現実世界でも同僚に救われた有栖川は、自分らしく前を向いて歩き出すというお話で、不条理コメディであり玄人はだしのメタ演劇にもなっています。物語的にクロスオーバーな視点の転換を導入するなど、高校生恐るべしと思った台本です。



以上で一般公開の部の紹介が終わりました。ですが、本校の文化祭はこれで終わったわけではありません。例年通り、今年も体育館で中夜祭を行いました。ここで、「文化祭最終日で何故中夜祭？何故後夜祭ではないのですか？」というご質問を昨年度いただきましたのでご説明申し上げます。本校の学校祭の名称は「楠翔祭」ですが、この学校祭を文化祭の部と体育祭の部を合わせて総称として「楠翔祭」と呼んでいます。文化祭は終わっても「楠翔祭」は終わっていないという意味で中夜祭と呼んでいる次第です。その中夜祭の様子が以下の写真です。盛り上がりとしそな雰囲気、華やかさが伝わるでしょうか。





これで本年度の楠翔祭・文化祭の部の報告を終わります。ここまでお付き合いいただきありがとうございます。最後に、地域の中学生の皆さんに呼び掛けて、この報告を終わります。

地域の中学生のみなさん、来年ぜひ本校に入学して、このお祭りに参加してみませんか。在校生、教職員一同、お待ちしております。